

# ハーモニ



(第20号)

発行：下田市役所企画財政課 編集協力：男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会  
 電話:22-2212 FAX:22-3910 メール:kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp

## 「男女共同参画社会づくり宣言」事業所を紹介します。

静岡県は、「男女共同参画社会づくり宣言」を行う事業所・団体を平成 19 年から募集しており、今年度も応募を受付中です。

下市内では、次の5事業所が宣言を行っておりますので、紹介させていただきます。

事業所名 (宣言実施日)	登録 番号	具体的な取組内容
伊豆太陽農業協同組合 (平成 20 年 5 月 7 日)	183	公序良俗を基本理念とした良好な人間関係と健康で明るい職場作りを目指す。 1.毎月開催される職場内会議で公序良俗研修をおこなう。 2.ノー残業デー(水・金曜日)により時間外労働の低減に努める。 3.女性職員の比率向上に努める。
(社福)聖愛会 稲生沢保育園 (平成 20 年 9 月 12 日)	313	全てを受け止め、子どもたちを愛し、子どもたちの為に力を注いでいきます。 男女がともに能力を発揮できる環境をつくっていきます。
(有)ホテルいそかぜ (平成 21 年 6 月 11 日)	381	従業員の働きやすい環境づくり ・女性が働きやすい環境にします ・時間外労働を削減します
(社福)春栄会 (平成 22 年 1 月 7 日)	482	男女がともに地域社会に果たすべき役割の実現と職場における能力の向上、そして活躍のできる職場環境づくりに努めます。
下田商工会議所 (平成 22 年 7 月 6 日)	522	「ワーク・ライフ・バランスへの意識を高め活力ある組織運営に努め、地域総合経済団体として男女共同参画の必要性を構成員に対し周知、啓発します。」

市内で最初に宣言を行った、「伊豆太陽農業協同組合」様から、具体的な取組について取材をさせていただくことになりました。次号(第 21 号)にその内容を掲載します。

## 子育て環境に思うこと、望むこと(第2回)

前回のハーモニー第19号に、「子育て環境に思うこと、望むこと」という特集記事を掲載させていただきました。その後も、ハーモニーの編集にご協力いただいている「男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会」メンバーあてに多数のご意見が寄せられましたので、第2回目の特集として取り上げます。

### ◎子育て中の40代女性(Aさん)

私の子どもの小さい時、「子育て支援センター」や「ひよこサロン」等の場がなく、他のお母さんと子育ての悩みや楽しみを分かち合う場がなかったのが、今のお母さんたちがうらやましく思います。母親同士の交流の場があることで、どれだけ彼女たちはゆとりと



子育てへの喜びを味わっているか知りません。下田の「子育て支援センター」が下田市の住民だけといった垣根を設けず、どの地域の人も受け入れてくれることがとてもうれしい。東伊豆町でも同様に、他の市町の住民も利用できるということで、幅広い交流の輪が生まれていると聞きます。

今は共働きの家庭も多く、祖父母の援助が求められない家庭にとって、「ファミリーサポートセンター」や「保育ママ制度」が強く求められていると思います。近所のペンションを経営されている方には、小さなお子様がおります。その方から、夕方の多忙な時など、こうしたシステムがあればいいと聞いたことがあります。同感できます。

### ◎子育て中の30代女性(Bさん)

子育て手当分の財源を、子育て支援センターやファミリーサポート事業のような制度を充実させる方向に使ってほしい。



### ◎40代女性(Cさん)

子育て支援センターができたことは、下田市にとっては進歩かもしれませんが、誰もが利用するわけではありません。利用する暇のない人もいます。誰の手も借りられない環境で子育てをしている人がいたら(誰でもその立場に置かれる可能性はあります)最低どんな支援があれば子育てが続けられるか、調査研究してほしい。本当に必要なとき、他人の手が借りられる制度があれば、安心して仕事をしながら子育てができます。行政には、ファミリーサポート事業を至急始めてほしい。





### ◎60代女性(Dさん)

子どもが減っている地域の実情(高校1校分の子どもがいなくなっています)から見て、子どもにとって中学まで同じクラスメートで毎日を過ごすことが、良いことなのか悪いことなのか見極めが難しいと思います。年齢と共に少しずつ広い環境に導いてやるのが保護者の役目としたら、移動手段の発達している現在では、送迎は大きな問題にならないと思います。むしろ女性が仕事を継続するなら、生き方を

選択する場合(せざるを得ない場合もあるでしょう)全ての幼児に対して平等に教育を施すことの方が、就学前の家庭教育を補う点で子どもにとってプラスになると思います。

### ◎60代女性(Eさん)

自分の子どもを育てる前に祖父母の立場を体験できたら、子育てはすばらしいものになるかもしれないという話をどこかで聞いたことがあります。しかしそんなことはありえないので、「親のベテラン」はどこにもいないということでしょう。お母さん同士が交流し合い、互いに子育ての喜びや苦しみを語り合うことで母親として成長することが大切だと思います。



現在下田市の進めている「幼稚園・保育所再編整備計画」についても、様々なご意見をいただきました。「これからの幼稚園・保育所のあり方について望むこと」として、紹介させていただきます。



### ◎子育て中の40代女性(Aさん)

市の進めている幼稚園・保育所再編整備計画は、正直に言って具体的な「姿」がよく見えないため、強い不安を感じます。地域の中で大切に育まれてきた乳幼児を、効率的な幼保一元化にまとめる中で、ひとりひとりの心を育てるといった、言わば「根っこ」の教育の部分が薄くならないかと気がかりです。今、幼稚園・保育所にいる子どもたちの親よりも、これからこうした新しい「子ども園」を利用することになる世代の方々からの意見をもっと聞き取っていく必要があると思います。

これから、ますます働く女性が増えるはずですが、病気の治りかけた子を保育園等に預けなければならないお母さんたちの心配は想像以上でしょう。保育施設に看護師さんが一人でもいてくれたら.....自分の体験からも、そんな思いを強く持ちます。

### ◎子育て中の 30 代女性(Fさん)



再編計画によって、良い環境にある幼保施設がなくなってしまうのは本当に残念ですが、いろいろな問題でしかたがないと思っています。人数の多い施設というと何となく落ち着かないイメージがありますが、子どもたちがのびのびと遊べて、話を聞くとときには落ち着いて人の話が聞けるように、先生方に工夫してもらえたらいいと思います。同じ地区の親子で交流できる機会があると嬉しいです。

### ◎4 歳児の母親(Gさん)

子どもが入園してから、毎日が充実し、楽しい幼稚園生活を送っています。今通っている幼稚園は、一人ひとり子どもの成長に合わせた対応をしてくれて、本当に感心するばかりです。しかし、仕事を持ってなくても、預かり保育があればいいと思うことは多々あります。自分や家族の通院、他の兄弟の用事、それ以外にも美容院に行くとき、次の仕事に就くためのスキルアップなど、もう少し気軽に預けられるようになればいいと思います。市の再編整備計画には賛成しています。その準備のために、現状の施設での延長保育や預かり保育の整備を早急に進めてほしい。幼稚園の先生方の忙しさは十分承知していますので、親の負担と、公的な負担の割合をどうするか検討してほしい。保育所と幼稚園、両方の施設が今まで培ってきた、子どもへの行き届いた対応が十分に活用された、認定子ども園ができるよう期待しています。



### ◎40代女性(Hさん)



幼保再編基本計画を拝読する限り、再編の主な目的には「予算」「少子化」「施設の老朽化」「ニーズの多様化」といった「運営側の都合」が多く見受けられますが、最も大切な目的である子どもたちの環境に、市が今後どういったスタンスで取り組んでいくのかが読み取れません。特に昨今マスコミ等でも見直しが注目されている未就学教育、多人数により生まれるコミュニティ環境への対応力育成などをどう汲み取っていくのでしょうか。こういった方針や目標を明確にし、それに沿った施設や運営手法を付随させていくものではないのでしょうか。

### ◎40 代女性(はさん)

市政や予算などよく理解していませんが、再編計画とは予めスケジュールを立てる事柄なのではないでしょうか。これは、統廃合に向けた作業工程ではないのでしょうか。決定事項なのではないでしょうか。ニーズ・要望・必要性の上に計画を立てるのならば、これからの5年間、その声をどうやって反映させるかを計画すべきではないのでしょうか。形だけの説明会でなく、もっともっと多くの声を吸い取って下さい。



※男女共同参画情報紙「ハーモニー」についてのご意見、ご感想を募集中です。また、ご希望の方には、過去発行された「ハーモニー」(創刊号～第19号)を郵送できます。

下田市役所 企画財政課 企画調整業務担当 TEL22-2212までご連絡ください。